

## 令和3事業年度決算の概要について

国立大学法人山梨大学の令和3事業年度財務諸表等の決算関係資料が文部科学大臣より承認されましたので、大学の財政状態や運営状況を広く知っていただくため、ここに公表いたします。

わが国は、経済を中心とする急速なグローバル化や少子高齢化といった急激な社会環境の変化が惹起した解決困難な種々の課題に当面しており、本学は、国民が当面する課題を克服し、わが国が持続的に繁栄できるよう、教育、研究、社会貢献機関としての本来の使命を果たす責務を負っています。この責務を果たすためには、本学の教育・研究機能を一層強化することが必要です。このため、自ら点検・評価を行うとともに、社会からの声を広く求め、以下のように教育・研究改革を推進しています。

令和3年度は、第3期中期目標期間の最終年度であり、中期目標達成に向けての総まとめとして年度計画を着実に実施し、教育・研究、業務の成果に結びつけました。

主なものとしましては、教育研究組織の見直しにおいて、先端脳科学の教育研究を強化するため、従前の学際的脳-免疫研究センターを発展的に改組し、「山梨 GLIA センター」を設置したほか、工学部改組に係る検討を加速させるため、全学WGを立ち上げ全学的に準備を進めました。

新型コロナウイルス感染症に係る対応では、前年度に引続きオンライン授業や学生の経済支援等を実施、さらに、ワクチンの大学拠点接種をいち早く実施し、本学関係者だけでなく県内の自治体や大学、障がい者施設の職員などに対しまして、約95,000回のワクチン接種を行いました。また、山梨県からの要請に応え、医療行為を提供する「医療強化型宿泊療養施設」（県内3か所）を運営するとともに、宿泊療養から退所後のケアまでシームレスに医療スタッフが患者情報を共有することができるシステム『SHINGEN』を開発し、山梨県内全ての新型コロナウイルス感染症罹患者へ導入したことにより、山梨県における感染症対策や医療体制の強化に繋がりました。

本学は今後も中期目標・中期計画の達成に向け、厳しい財政状況の中、外部資金の獲得等自己収入の確保を図りながら、一層の経費節減や事業の見直し・効率化等を継続して進め、教育・研究活動の更なる充実・発展に努めるとともに、その成果を活かした社会貢献を進めてまいります。

公表にあたり、ご支援いただいた関係各機関や地域の皆様に改めて感謝申し上げますとともに、本学が今後も「地域の中核を担う人材、世界で活躍する人材」の養成を通し、社会の発展に寄与することができますよう、引続きのご支援をお願い申し上げます。